

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600228		
法人名	社会福祉法人 天寿会		
事業所名	グループホームいたどり (ユニット式)		
所在地	白老郡白老町字竹浦135番地7		
自己評価作成日	平成 30年10月5日	評価結果市町村受理日	平成 31年 1月 10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigvosvoCd=0193600228-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成30年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を玄関に、事業所理念を事務所に掲示を行い、共有と実践を図れるように努めている。理念の確認については、利用者支援で迷いが生じた時やミーティング等を通じて確認しあい実践につなげる様に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し回覧板を通じ町内活動を確認し、施設側の広報誌を回覧して頂いている。町内会の一員としてお祭りや文化祭、町内清掃活動に参加している。又、散歩時などで挨拶を交わす等の交流を図り、時には、花壇用のお花等を頂く事もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェときいろを開催し地域の方の認知症への相談にのったり情報を発信している。利用者の方も参加し地域の方とお茶を飲みながら交流できる環境を作っている。又、地域からの見学者や相談には都度応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長等、地域の方に参加して頂き施設内の活動報告や事故発生状況をお伝えし、助言などのご意見を頂いている。意見に関しては参加職員から口頭やミーティングにて発信している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加をして頂き、取組に関する評価を頂いたり、必要に応じ相談をさせて頂いている。白老町グループホーム連絡会の一員としても参加させて頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上で玄関ドアの施錠は行っている以外は、施錠せず自由な行動ができる様に対応している。ただ、夜間でも外に行きたい希望時は開錠することもある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加や内部研修に参加し学ぶ機会をもっている。委員会にての研修実施やアンケートを行い、結果を回覧し全職員が確認できる様にしている。		

グループホームいたどり（ユニット式）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加にて学ぶ機会以外には学ぶ機会が少なく理解が不十分である。その為、個別に学ぶ機会を作ったり、不明な事は上司に確認している。実際に制度利用しているの、制度理解を今後深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は自宅へ訪問したり、施設内に来て頂き説明を行い、その中で疑問があれば都度説明し、不安軽減や解消に繋げている。制度改定時は変更通知行い、必要に応じ面会時に説明しご理解を受けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時に近況報告や言葉かけを行い、意見や要望を言いやすい環境作りをしている。利用者の方にも運営推進会議に参加して頂き意見のお伺いを受けている。意向や要望は職員同士や上司に相談し解決に繋げる。又は、ミーティングで検討し運営に反映できる様に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループウェアの活用や、朝と夕のミーティング時に意見や提案ができる体制となっている。又は、普段の会話の中や、個人的にも時間を作り意見を聞く機会を設けている。運営推進会議において職員と代表者が会う機会を設け、管理者や法人内の各施設長のメールアドレスも公開し、いつでも意見をできる体制をとっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	柔軟な勤務変更や、希望休日がとりやすい環境を提供している。この様に休日活用し趣味活動行える事で、働く意欲が高められている。資格・経験や年齢に基づいた給与体系。資格を取得する事で正職に昇格できる可能性や、研修参加のバックアップなど職員が向上心持てる支援に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で介護職への養成施設を開設し未経験者の育成体制がある。又、研修委員会を設け定期的に研修を開催し参加を促している。外部研修に関しても参加できる機会を作ってくれている。事業所ごとに委員会を発足し研修機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生の受け入れや、研修を通じて他事業所の職員との交流が図れる機会がある。町内のグループホーム連絡会への参加や情報誌を通じての交流、運営推進委員会の構成員としての交流がある。ただ、交流機会は少ないので、今後は機会を増やしながらサービスの向上に活かせる様に取り組みたい。		

グループホームいたどり（ユニット式）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問での聞き取り等で情報収集を行い、内容を記録に残し職員の共有が図れる様に努めている。交流では普話など、話しやすい環境作りを行ってから、不安面や要望を引出し傾聴や改善に繋がられる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族・ご本人へ確認を行い、ケアプラン作成にいかせられる様に対応し支援に繋げている。不安面や要望などを話ずらい事に関しては、職員から声掛けを行い対応している。又、話しやすい関係づくりや雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望を利用相談時に確認を行う。確認をしてから必要と思われる支援やサービスへの提案をさせて頂いている。時には、他サービス事業所や居宅支援事業所への提案や調整をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事調理や掃除等の家事作業や行事等の活動と一緒にいながら、得意なできる事を教えて頂き行っている。不得意な部分や今まで行った事がない事に関しても、意向を尊重しながら一緒に行ったり、相談しながら行っている。利用者同士の支え合いも大切にし、生活を共にするパートナーとして共感し合え、互いの意欲向上に繋がる様な関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や来所時などに、ご本人の生活状況をお伝えし、その際に要望や意向の確認を行っている。ご家族もチームケアの一員としてご本人を支え、参加して頂ける様に、ご家族も含めた行事を増やしている。情報交換や意向確認・相談など、まだ少なく感じているので、今後もチームの一員として関係を築いていきたい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や医療機関への受診など、関係の継続が図れる様に支援している。家族関係継続以外にも、地域行事への参加や知人面会など懐かし場所や人に会ったりする事で関係の継続が図れる様に努めている。又、受診後には、お寿司などの昼食を食べる等、自宅同様の支援を心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段のレクリエーションや行事等で利用者様の関係作りに努め、家事作業では利用者様の関係性に合わせ家事作業の分担をしている。より良い関係性の継続が図れる様に、互いのお部屋に行き来しお茶を飲む関係性を作り、利用者様同士が互いに支え合い、お互いに自分らしさを発揮できる機会が作れる様に努めている。		

グループホームいたどり（ユニット式）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後の病院や施設へ面会に訪問し、ご本人様やご家族様と思い出話をしたりする関係性を継続したり、行事の際は、ご家族様の協力を受けながら思い出話や現況の情報交換等をしている。又、地域でお会いした時も世間話を通じて情報交換をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の交流の中で、今の思いや希望・意向把握に努め、意向確認した事は記録に残し共有できる様にしている。意向確認困難な時は、具体例を提案したり、表面化しないニーズはアセスメントやご家族の情報をもとに検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前訪問と面接や他事業所からの情報を基に、ご本人やご家族様から聞き取りを行い情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なアセスメントや、毎日のミーティングにて生活の様子等を基に支援目標を立案し、その効果を報告し記録に残す等を行い現状の把握と支援に繋げている。些細な変化に関しても記録に残し、情報共有を行いながら状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングとアセスメントを実施し、担当介護員を中心に意見とアイデアを集約し、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気づき、支援やその結果等を個人記録に記載し、朝・夕のミーティング等の申し送りで情報共有を図り、必要に応じて介護計画の見直しができるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外食や買い物等の外出を、希望に応じ実施できる様に努めている。遠方に関しては行事企画をたて実施に繋げている。又、その時の状態変化に応じての受診などは、都度実現に向け取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、会員としてのお祭り等の地域活動への参加や回覧板をまわしたり、地域の一員としての暮らしができて楽しめる様に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医への継続はもちろん、状態に応じてご本人・ご家族への情報共有を行い、状態に応じた希望される医療機関に受診できる様に努めている。必要に応じて、医療機関に情報提供書を提出と同行を行い、必要な医療がスムーズに受けられる支援を行っている。		

グループホームいたどり（ユニット式）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師によるバイタル測定及び体調確認をして頂いている。体調変化や些細な事に関して都度相談・報告行い、助言や必要な医療を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院するにあたり情報提供書を提出し病院への情報をお伝えしている。入院中にも定期的な訪問やお見舞いに行き病棟看護師との情報交換を行うなど、必要に応じ支援している。又、医療相談員と連携し入院中の状態の把握に努め退院後の適切な支援に繋げている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、終末期における事業所の方針についての説明行い、方針の共有を図る様にしている。ご本人やご家族の意向に沿いながら医師や訪問看護師との連携行い、意向に応じた終末期をむかえられる様に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハットで、危険予測と対応を検討し、AED使用方法などの普通救命講習の研修に参加し受講している。ただ、研修期間が開き過ぎると忘れてたり自信がなくなるなど実践力が不足している言動が職員から聞かれるので訓練を重ねていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練の実施を行う。訓練では消防署員の協力を受け、消火器体験などを実際に行い、訓練後の消防員からの講評を受け効果的な避難方法や消火対応を学んでいる。火災以外にも全町一斉の津波避難訓練に参加し事業所全体での避難方法を身につける様にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に添った言葉の大ききで、場所や場面に注意しながらの声掛けを行い、ご本人の尊厳を保てるように努めている。ただ、時には馴れ馴れしい感じで、声のトーンも全ての方に対し同じ様な対応になっている場面も見られる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりで信頼関係を築き、希望や自己決定しやすい環境に努めている。ただ、考えがまとまらない時や困難な場合には、いくつかの選択肢を提示し自己選択から決定に繋がられる様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の思いや考えで参加して頂き、ご本人のペースで食事や入浴などの生活が送れる様に努めている。ただ、職員側の都合となる場面も見られるので、注意・改善していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を選び着て頂き、お化粧する等おしゃれを楽しんで頂ける様に支援している。また、必要に応じ鼻毛や産毛の処理も外出時には注意しているが、不完全な事もあるので改善に繋げたい。		

グループホームいたどり（ユニット式）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普通の献立では季節に応じた物を入れる様に考慮し、同じ様な物が続かない様に配慮している。行事の献立では希望するものを取り入れている。盛り付け等の作業以外に、調理では魚をさばいたり、貝のむき方を教えて頂いたりと交流しながら一緒に作業する様に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分摂取量を観察・記録し、嗜好品等の個々の食習慣を取り入れている。又、体重増加者には量の調整したり、水分少ない時はこまめな水分提供やゼリー状にして水分確保する支援をしている。ただ、食事拒否の方に対しての支援については、何が本人に効果的なのか把握できていない部分もあるので今後も工夫しながら共有する事が必要。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力困難な方に関しては介助。自身で行える方に関しては声掛けや仕上げの介助をしている。ただ、仕上げの方に対する支援が不十分な事があるので今後改善していきたい。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートに水分量や排泄時間等を記録し、間隔の確認に努めている。排泄パターンを記録する事で間隔の推測を行い可能な限りトイレでの排泄を基本として紙オムツ使用の減少にも努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操等の適度な運動や腹部マッサージ等に取り組んでいる。又、水分量を多めに摂って頂き、寒天など食物繊維を多く含んだ物や乳製品を提供し便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご自身のタイミングで入浴ができる様に、常にお風呂の準備をしている。入浴の拒否がある方に対しては、入浴したいと思って頂ける様な動機づけの声掛けや時間を置き再度声掛けする様にしている。ただ、入浴間隔が長く頻度が少ない方に対してはタイミングより入浴を優先させてしまう事や、状態に応じ夜間入浴が困難な時もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体力に応じ、自室や共有スペースで休息をとって頂いている。日中に適度な活動支援を行い、夜間の良眠に努めている。又、夜間眠れない時には、温かい飲み物を提供したり、付き添う対応を行い入眠に繋げられる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をファイルに綴り、いつでも確認できるようにしている。特に受診後には薬情確認をしている。内服薬が変更した時は、ご本人の状態を観察し記録に残したり申し送りを行い情報の共有に努め、次回の受診に繋がられる様にしている。ただ、全員分の薬情把握はできていない時もあるので、都度ファイルを確認しながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸・家事・手芸・晩酌・読書・歌など、ご本人の生活歴やその時の思いを尊重し、個々に添った支援を提供し、楽しく気分転換できる生活を送れる様に努めている。又、1人では困難な方に対しては、職員と一緒に意向に応じた簡単な作業をしている。		

グループホームいたどり（ユニット式）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣へ買い物や散歩、地域行事への参加など、その時の希望や行事に応じて支援している。又、普段の関りの中で意向や趣向・嗜好確認した事と生活歴などを行事に反映したり、馴染みの美容院や受診の帰りに外食など個別支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望と能力に応じて自己管理できる様にしている。事業所で管理する場合でも、買い物や外食時には、自身で支払う事ができる機会をもてる様に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用や取次の支援は行っている。ただ、手紙や年賀状の支援に関してはできていないので、今後希望に応じ支援する様に改善していきたい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内には季節に応じた花や飾り付けを行い、観葉植物やぬいぐるみ等、温かい環境を提供できる様に心掛けている。室内の明るさや換気・暖房・加湿等を行い、不快な臭いがある場合は都度消臭を行いながら、心地良い環境下で過ごせる様に取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではTV前にソファを設置し他者同士で談笑したりTVを楽しんだりできる空間を作り、小リビングでは独りになり過ごせられる空間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り自宅で使用していた馴染みの家具や食器などを持参して頂いている。自室には自身やご家族の写真を掲示したり、ご自身の洗濯物を自室に干しプライバシーの保護にも努め、安心できる生活が送れる様に支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーで安全面確保。説明時は利用者の方が理解しやすい言葉に変換する配慮をしている。例えば、浴室のシャンプーボトル等は、「あたま」「からだ」と表記し迷わずに自身で行える様にしている。又、環境面では混乱しない様に場所の変更なるべくはしない様に心掛けている。		